



カツオ

中西部太平洋

主な漁業と漁期
日本近海
竿釣り、まき網：春から秋
熱帯域
まき網：周年

生態

日本では、刺身・たたきによる生食と鰹節、世界では缶詰の原料として利用されています。

●分布・回遊

太平洋に広く分布し、熱帯域には周年、様々な魚体のカツオが出現します。

日本の近海から沖合を含む温帯域には春から秋にかけて小型個体が北上来遊してきます。主な来遊経路は①黒潮沿い、②紀南・伊豆諸島沿い、③伊豆諸島東沖、④東沖ルート などがあると考えられています。

●産卵期・産卵場

産卵期は熱帯域では周年とされ、表面水温24℃以上の水域で広く行われ、限定された産卵域は形成されません。日本近海では沖縄諸島はもとより伊豆諸島から北緯35°付近でも、規模は小さいものの産卵が行われていると考えられています。

●成長・成熟

成長は早く、生後1.5ヶ月後には体長10cmを超え、6ヶ月で約30cmに成長します。その後、1歳で体長44cm、2歳で62cmに達するとされています。寿命は6歳以上と考えられています。

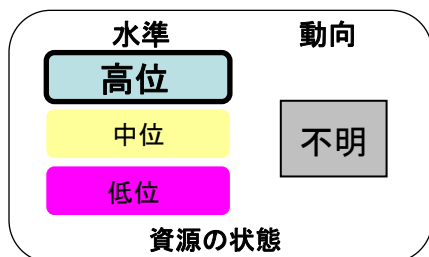
成熟開始サイズは雌で40cm、雄で35.5cmとされ、雄の方が早く成熟が始まります。



竿釣り船の水揚げ

漁業・資源動向

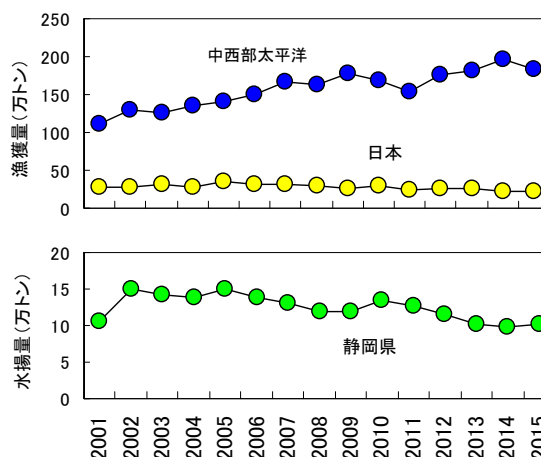
【資源】



- 1 SPC(太平洋共同体事務局)による2016年の資源評価では、親魚資源量を約420万トンとし、資源は過剰漁獲の状態になく、乱獲状態にも陥っていないと評価しました。
- 2 一方、日・中・台は、親魚資源量を約224万～約592万トンと評価し、SPCの評価は海域の区分や自然死亡率などの資源評価モデルの設定に問題があることを指摘し、評価を支持できないと主張しました。
- 3 そのため、WCPFC科学小委員会はSPCの評価結果を承認せず、SPCと日・中・台の両者が支持する資源水準が会合レポートに掲載されました。

《国の資源評価へのリンクはこちら》
http://kokushi.fra.go.jp/H28/H28_30.pdf

- 1 2001年以降、中西部太平洋全体では年間110～196万トン、日本では年間22～36万トンの漁獲量で推移しています。また、静岡県への水揚量は、10～15万トンで推移しています。
- 2 中西部太平洋の漁獲量は年々増加しており、これは外国籍のまき網船の増加によるものです。



中部太平洋と日本のカツオの漁獲量の推移(上)と
静岡県のカツオの水揚げ量の推移(下)

担当者の一言：静岡県は、遠洋から沿岸まで様々なカツオが水揚げされ、水揚量は日本一です。

問合せ先

静岡県水産技術研究所資源海洋科 054-627-1817